

THE ULiCS TIMES

う り く す ・ タ イ ム ズ Vol. 8

2020.10.vol.8

神戸松蔭女子学院大学 と交流会を実施しました！



2020年2月10日(月)、神戸大学社会科学系図書館ラーニングコモンズにてULiCSと神戸松蔭女子学院大学図書館サポーターの交流会が行われた。ULiCSと同じように大学の図書館サポーターとして活動している他大学のメンバー達と交流する、という今回の企画は初の試みで、メンバー内でも当初から「やってみたい！」と楽しみにする声が多かった。

ULiCSからは学生6名、職員3名、神戸松蔭大からは学生8名、職員3名が参加した。当日はまず参加者の自己紹介から始まり、その後両団体が活動紹介を行った。先方からは活動内容として、おすすめ本を紹介する本棚「モノクル」の運営やオープンキャンパスをはじめとする図書館イベントの補助、選書、書評執筆などが紹介された。両団体ともお互いに相手の活動を知ること、今後の自分たちの活動を考える上で大きな刺激を受け合うことができたと思う。

活動紹介の後は読書会が行われた。ULiCSでは普段、テーマを一つ決めてそれに合わせた本を持ち寄ってゆるく話し合う読書会、「まごまご読書倶楽部」を開催しているが、それに倣って本読書会でも「私の専攻にまつわる本」というテーマを設定していた。読書会では、それぞれの専攻分野と合わせて様々な本が紹介されたが、印象に残った一冊は『王様でたどるイギリス史』(池上俊一著)という本だろうか。

「たどる」ヨーロッパ史シリーズの一冊で、歴代の英国王の個性的な人物像からイギリス史を読み解いていくという内容の本である。自分自身は今までヨーロッパ史はあまり勉強したことがなく未知の分野だったが、本を手にとってみると難解と思っていたイギリス史が読みやすく紹介されており、興味を持った。異なる大学から学生が集まり、幅広い専攻分野の人がいる場ならではの本との出会いがある面白い読書会だった。



▲紹介された本。文系、理系を問わず様々な本が紹介された



THE ULiCS TIMES Vol. 8

2020年10月15日(木)

神戸大学附属図書館学生チームULiCS
<https://lib.kobe-u.ac.jp/about/ulics/>



▲交流会の様子

読書会終了後は全員で記念撮影を行い、最後に希望者を対象とした社会科学系図書館の見学ツアーが行われた。社会科学系図書館は国の登録有形文化財にもなっている歴史ある建物である。見学ツアーでは開架室だけでなく学外者が普段立ち入れない書庫なども案内が行われ、神戸松蔭大のメンバー達からも好評だった。

初めての交流会だったがお互いのメンバー同士、読書会などで本について語り合っているうちにあっという間に打ち解けることができた。今回は会場を神戸大学としたが、ULiCS内では「次は神戸松蔭大でやりたい」という意見もあり、これからも何らかの形で交流を継続していきたいと考えている。

(工学部3年 竹内)



図書館でクラシックを聴こう！Naxos Music Library の紹介

図書館のデータベースを利用する機会が増えたのに伴って、利用に必須な「VPN接続」をする機会も増えたと思います。せっかくVPN接続したなら、少し寄り道していきませんか？

今回ご紹介するのは、[「ナクソス・ミュージック・ライブラリー \(NML\)」](#)。附属図書館の説明によると「クラシックを中心としたCD約10万枚が聴き放題のデータベースです。NAXOS以外にも多数のレーベルの音源が提供されており、古楽から現代曲までのクラシック以外にも、ジャズ・ポップス・民族音楽など、幅広い音楽を聴くことができます」とのこと。海外のクラシックレーベルが中心なので、バレエや吹奏楽をしている方には馴染みのある曲が多いと思います。

アクセスするには、VPN接続した状態で、附属図書館のサイトトップから、データベース一覧＞内容別リスト：視聴覚資料・デジタルアーカイブ＞[ナクソス・ミュージック・ライブラリー \(NML\)](#)で入ることができます。

まずは、ジャンル＞交響曲／管弦楽曲から知っている作品を適当に押してみましょ。左側のジャケット画像の下にある「選択曲を再生」を押すと別ウィンドウが立ち上がり、聴くことができます。

次に、作曲家のタブからお気に入りの作曲家を探してみましょ。主要な日本人だと、山田耕筰、坂本龍一、中田喜直などがいます。気になる作曲家を見つけたら、名前を検索窓に入れてキーワード検索し直してみましょ。するとアルバム単位でまとめて聴くことができます。再生回数、配信日などで並び替え可能なので、聴きやすいものを選んでみて下さい。名前と代表曲しか知らなかった作曲家がお気に入りになるかもしれません。

キーワードを工夫すればサイト上部にある検索窓から現代の海外アーティストの曲を聴くこともできます。試しに「レディ・ガガ」で調べてみると、管弦楽アレンジらしきものがヒットしました。ジャンルタブから興味に関連する楽曲に出会うのも楽しいですよ。

特設ページには、クラシック音楽を扱った作品中に登場する楽曲のプレイリストが用意されています。例えば、恩田陸の小説『蜜蜂と遠雷』や、二ノ宮知子の漫画『のだめカンタービレ』、一色まことの漫画『ピアノの森』、人気ゲーム「金色のコルダ」などです。

ナクソスで広告の入らない高音質のクラシックを手軽に楽しんでみませんか？ （法学部3年 水田）





「ことば」と生きる

『ことばの教養』

外山滋比古著
中央公論新社
2008



聖俗、貧富、神人、そのはざま

『心ならずも天使にされカストラートの世界』

フーベルト・
オルトケンパー著
荒川宗晴・小山田豊・
富田裕訳
国文社 1997

「IT化」「オンライン化」「在宅勤務」etc…
これらは新聞やニュースで耳にする機会が増えたフレーズであり、今後私たちが生きていく社会の情勢を顕著に表していることばだろう。そしてこうした傾向は近年のIT機器の発達やSNSを使った情報共有の拡大に加え、新型コロナウイルスの感染拡大によって急速に重視されるようになった。この数か月で私たちの生活様式は一変し、直接的なつながりをつくるのが難しくなっている。だが、どんなにヒトとヒトとの面と向かっての対話が減ったとしても、私たちは「ことば」という手段を通してつながりを得ている。「ことば」を話し、書き、聞き、読むことで自分の思いを伝え、相手の気持ちを汲み取り、認め合うことができる。

本書では、言語学者である筆者の「ことば」を通して得た数々の経験が短編集としてまとめられている。「ことば」のもつ力によって、ある時は対話にユーモアを生み出し、ある時はすれ違いをもたらす。一通の手紙で始まったやり取りが、結果として長い付き合いのきっかけになることも。著者の言語学者としての見解も踏まえながら、「ことば」を介した何気ない日常を感じることができる一作だ。

本書では対面での会話だけでなく、電話や手紙、読書といった間接的なつながりによって得た「ことば」の魅力と経験について多々綴られている。つながりとはヒトとヒトとの対面に留まるものではない、視点を変えて考えると意外な面でつながりを得ていることだってある。こんな状況だからこそ、「ことば」によるつながりを再認識することができるのではないだろうか。

(農学研究科修士1年 上村)

原著の本タイトルは„Engel wider Willen“、逐語訳すると“Angel against Will“……たった3つの単語である。このシンプルな題を「心ならずも天使にされ」と訳したセンスに惜しみない称讃を贈りたい。本書は人間科学図書館の蔵書だが、書架で見かけたこのタイトルに一目惚れして吸い寄せられるように手に取った。

この謎めいたフレーズの意味は、ページを捲るまでもなく副題の「カストラート」に示されている。これはかつてヨーロッパで活躍した男性ソプラノ歌手、「カストラート（去勢歌手）」の文化史を辿る人文書である。

変声期を迎える前の少年に去勢手術を施して性的発達を止め、ボーイ・ソプラノを保ったまま大人の体格や歌唱技術を持つ歌手に育てることでカストラートは生み出されてきた。当時は男性しかいなかったキリスト教会の聖歌隊やオペラの舞台で高音域を歌い上げて「人間の肉体や性別を超えた天使のような声」として絶大な賛美を博し、輝かしい富や名声を得ていたという。しかしその陰では数え切れないほどの男児が、我が子の成功を夢見た親に外科手術を強いられ肉体を傷付けられてきた。現在では人道的な理由からカストラートは存在せず、その声は「完全な再現が叶わない幻の歌声」とされている。本書ではカストラートが当時の音楽に、ひいては後世の社会や文化にどれほどの影響を及ぼしたか、多面的な観点から検証されている。

サークルで大学合唱をやっていた頃に、「五線譜は横でなく縦に読め」と教わったことがある。一聞してもよく分からない言葉だが、自分が歌うメロディーだけを追うのではなく他の声部や楽器との関係を絶えず意識しろ、という意味であった。同じように歴史上の存在に迫るときもまた、同時代の政治、経済、宗教、哲学、芸術などを網羅的に理解しないとその本質には迫れない。仕事を離れた読書で、そんなことを久々に思い出した。本書は出版年がやや古い、カストラートを主題とした日本語の図書は希少である。読み応えがあるので、ぜひ一読いただきたい。

(職員 谷口)

小冊子『ふみぶみ』に寄稿しています！



みなさん、ふだん手紙って書きますか？私はほとんど書きません。ついスマホで済ませてしまいがち……。そんな私が縁あって、手紙のあたたかさや面白さを伝えるフリーの小冊子『ふみぶみ』に寄稿させていただくことになりました。

コーナー名は『読書のち晴れ、ときどき手紙。』前向きになれるような、迷ったときにそっと背中を押してくれるような、そして、たまには手紙もいいなと思えるような本をテーマにご紹介しています。第1回目は『ナミヤ雑貨店の奇蹟』と『ラチとらいおん』、第2回目には『I love letter』と『たんたのたんけん』を取り上げました。読書は大好きですが、その良さを伝えるのはなかなか難しい……。試行錯誤しながら、読書の楽しさが伝わるように、心を込めて書いています。

『ふみぶみ』は手紙を通して人と人が穏やかにあたたかくつながっていくことを目指す小冊子。へえ、そうなんだ！とびっくりするようなお手紙に関する情報や、素敵な便箋や切手、万年筆についてのお話も盛りだくさん。なかなかディープな世界です（笑）。ですが、‘Youth Voice’など、私たちと同世代の意見を聞ける親しみやすいコーナーもあります。読み終わった後は大切な誰かに手紙を出したくなるかも。3か月ごとに発行され、11月発行のふみぶみ5号が私のコーナーの第3回目。何を載せようか悩むのも最近の楽しみの一つです。フリーペーパーなので発送手数料のみで購読できます。興味のある方は『ふみぶみ』で検索してみてくださいね。

（医学部2年 内田）



～ULiCSからのお知らせ～

残念ながら今年是对面での活動ができておりませんが、ULiCSはいつでも部員募集中です！部室は自然科学系図書館2階にあり、定例会やThe ULiCS TIMESの編集会議が行われています。ビブリオバトルやまごまご読書倶楽部、他大学との交流会、夏遠足など、これまでのULiCSの活動はThe ULiCS TIMESに掲載されています。バックナンバーは附属図書館HPからご覧いただけます。附属図書館マスコットキャラクターうりこのLINEスタンプは第1弾、第2弾ともに好評発売中ですので、ぜひチェックしてみてください！現在のULiCSの活動や図書館のお役立ち情報はTwitter [@ULiCS_KobeU_Lib](https://twitter.com/ULiCS_KobeU_Lib) にて発信しております。Twitterの質問箱では随時質問も受付中です！入部希望やお問い合わせの際には libr-students@edu.kobe-u.ac.jp までご連絡ください！



ULiCS
メンバー募集中！

